

「私たちの計画はフィクションではない」

～信仰と最善を尽くす実践～

エレミヤ書 29 : 11 IIペテロ 1 : 1-16

Iペテロ、IIペテロというのはペテロが残してくれた遺言です。死期を悟ったペテロが最後に残したい言葉というのとはどんな気持ちでどんな状況で書かれたのでしょうか。きっとペテロも今の私達を想像して書いたのではなくて、身近な人の顔を思い浮かべながら自分がやり残した事はないか、伝えきれていないことはないか神様に祈りながらこの手紙を書いたのではないのでしょうか。でも、神様の計画はそれより遥かに素晴らしく私達の想像を越えるものであって何千年もの歴史を紡いでペテロが書いた手紙を今この時間に私達が聞いている。ペテロはそんなことも想像していなかったと思います。だけど、神様は計画されていました。

■ 夢についてあなたはどのように思いますか？

エレミヤ書 29章8節 『まことに、イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。「あなたがたのうちにいる預言者たちや、占い師たちにごまかされるな。あなたがたが夢を見させている、あなたがたの夢見る者の言うことを聞くな。』と書かれています。夢見る者の言うことを聞くなとはどういうことなのか調べました。「あなたがたの夢」の原語を調べて夢を見させる、好感を持たせる、回復させる原始的な語源で、正しくは「しっかりと縛る」、すなわち(暗に)「ふっくらとした」、また(間抜けなという比喩的な意味で)「夢を見る」、「夢を見させる」好まし状態になる、「回復する」など。夢は見て目標はあるが間抜けなのです。出来ないという信仰に縛られてしまっています。そして、誰に好ましい状態でしょうか。悪い奴らは吠えたい獅子のようにあなたの周りを嗅ぎまわっています。闇にふんわり囚われて出来ない思いで夢を見続けるというのは悪い奴らにとっては好ましい状態と書かれています。だから、エレミヤはその様な夢を見るなど言っています。あなたの夢はどうでしょうか。計画は立てるけど出来ないと思っていないでしょうか。その夢は神様が見させている夢ではありません。もし、あなたがふんわり何かに縛られて叶いっこない、出来なくてもいいかと目標を立てていけば見直す必要があります。では神様はどういっていますか？平安と希望の計画が私達にはあると書かれています。それに対して夢を見るなど言っています。エレミヤ書の29章前半に書かれています。家で普通の生活を過ごすことを現わされて書いています。29章7節には「わたしがあなたがたを引いて行ったその町の繁栄を求め、そのために主に祈れ。その繁栄はあなたがたの繁栄になるのだから。」と書かれています。今私達が置かれている場所、受けているものが既に神様の計画です。それに対して繁栄を求め祈るとはどういうことか考えてみると、やはり今の環境や置かれている場所、与えられているものに対してベストを尽くすということです。神様はふんわりした、叶わない様な悪魔が聞いて好ましい夢は与えていません。神様の夢はフィクションではない、夢ではなく計画なのです。神様の計画はフィクションではない。悪魔が聞いて好ましいものでもありません。このことをペテロはどう言っているか今までのメッセージを聞いてきたIIペテロから見ていきたいと思います。IIペテロのアウトラインをまとめて紹介したいと思います。

●誰に向けて？(1:1)

ペテロは、この手紙を自分と同じように神の御心によって救いを受け取った神の家族、信仰の家族に対して宛てている手紙です。

●何を伝えたい？(1:2)

恵と平安(霊的な幸福の特別な感覚)が増し加わる為にどうしたら良いか。IIペテロ 1:2 神と私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、あなたがたの上ますます豊かにされますように。

●どうして伝えたい？

ペテロの死期が迫っている 栄光と徳によってお召しになったイエスを知ること、いのちと敬虔に関するすべてのこと、尊い、素晴らしい約束が与えられます。前半の原文を見ると日本語だけではなく意味が沢山出てきますので*で説明します。

*選ばれた私達は、誰でもこの真理をうけとる事ができる。(能力が高い人、牧師とか限定されているわけではなく神様を信じる全ての人にこの約束が与えられると書いています。)

*その約束は言葉では言い表せないほどである。

*私達は選ばれるに値しない存在である。(私達は選ばれるに値しない存在なのにこの恵みを自分の力ではないのに受け取れる) 私たちは選ばれるに値しない存在なのにイエス様を信じるならば誰でも受け取れる、約束されているからペテロはこの素晴らしい福音を伝えなかったのではないのでしょうか。

■ これはフィクションではない

IIペテロ 1:16 『私たちは、あなたがたに、私たちの主イエス・キリストの力と来臨とを知らせました。それは、うまく考え出した作り話に従ったものではありません。この私たちは、キリストの威光の目撃者なのです。』と書いてあります。ペテロはフィクションではない来臨の姿のイエス様とモーセとエリヤと3人で話しているのを目撃しました。(マタイ 17章)だから、

フィクションではないとハッキリ言いきれませんでした。ペテロは沢山の失敗を赤裸々に書いて残した。なぜ死ぬ間際に残したのか。余程大事な事なのでこれは心の目で見なくてははいけません。失敗の中に神様の希望と平安の計画があると確信できます。

■ 失敗・罪・弱さというペテロの人生を通して近視眼になるな

『これらを備えていない者は、近視眼であり、盲目であって、自分の以前の罪がきよめられたことを忘れてしまったのです。』(IIペテロ 1:9)

「これら」とは、私達の特質です。クリスチャンが与えられている特質とは何でしょうか？それは悔い改めです。近視眼とは過去の罪に囚われていることを言います。もう自分に向き合うのは苦しいと思うなら古い罪、弱い自分に囚われて本当に悪かったと思っていない(悔い改めていない)証拠です。弱さを認めて悔い改めが出来ないと近視眼になります。

■ 悔い改めのプロセス (IIコリント 7:11)

悔い改めのプロセスをIIコリント 7:11 でみて行きましょう。問題が起こったり、失敗したり、自分が不利になった時にこの御言葉にあるように、①弁明(私は悪くない)②憤り(人のせい)③恐れ(不安)と、このような感情の流れをたどった経験はないでしょうか？そしてここからが分かれ道です。④慕う心(いき自分が悪かったと弱さを認めることを決断して神様の前にでる事です。心から悔い改めた時、私達は⑤熱意へと導かれます。これは悔い改めることによって与えられるのです。

■ 神の慈愛

『それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか。』(ロマ 2:4)「慈愛」のギリシャ語の語源の意味：「役に立つ親切」。神の方法で、神のタイミング(ファッション)で、本当のニーズを満たすことを指します。そのため、慈愛は聖霊の「親切」として挙げられています。霊によって生み出された優しさ。「私たちは、この親切と善の概念を完全に伝える言葉を持っていません」これぞまさに神の領域・神の知恵です。この熱意が私達の志になります。だから失敗する体験・過程が大事と語られました。

■ どう向き合うか？

信じて迎えること。信じようとする決断すること。徳・アレティーは「善・卓越性」(などの意味があります。失敗した人が、卓越性や本来の姿を見ることが出来る。それが最善である。)私達は素晴らしい存在なのです。それはこの「徳」(アレティー)が複数形になると、神の優れた点(すばらしい行いと美徳と完全さ)という意味になり、Iペテロ 2:9. で使われています。この素晴らしい方を宣べ伝える為に「選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた」のです。

■ 「わたし」という人生に、立てられている「計画」とは？

①「計画」とは目に見える「planning」ではなく「根源」つまり私達の存在価値を意味します。私達の計画は「卓越した本来の姿に戻る」ためのものなのです。だからこそ

②「目に見える計画を！」=最善が求められます。

『こういうわけですから、あなたがたは、あらゆる努力をして、信仰には徳を、徳には知識を…』(IIペテロ 1:5)

*「あらゆる努力」とは「神の約束」に対してのあらゆる努力です。それは遠い何かの為ではなく、今、与えられているものに最善を尽くすことにつながります。

③わからなくても大丈夫です。ただ信じて従うだけで良いのです。

これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら(霊的成熟に向かって成長するにつれて)あなたがたは私たちの主イエス・キリストを知る点で、役に立たない者とか、実を結ばない者になることはありません。(1:8)

最後に…

悔い改めは決してあなたを責めるものではありません。あなたに神様の熱意が与えられる瞬間です。恐れずに私達がよく分からない夢に縛られていないか認められない弱さが無いかな

静まりながらただ従い最善を尽くすことに心を注いでいきましょう。

『わたしは、だれが死ぬのも喜ばないからだ。—神である主の御告げ—だから、悔い改めて、生きよ。』(エゼ 18:32)

(要約者:富岡 美千男)

(2021年7月11日)